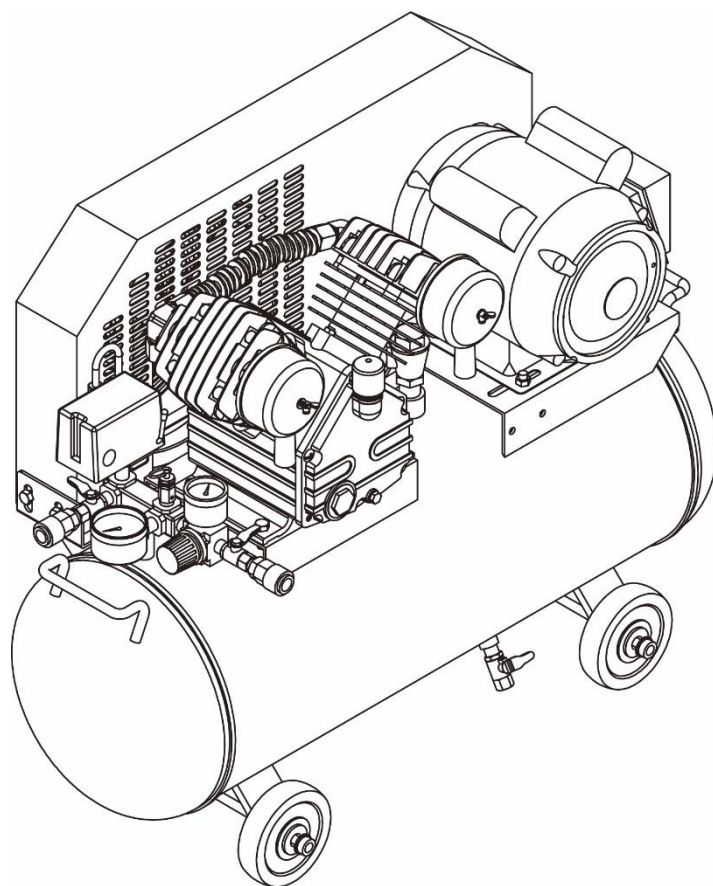


# AIRWAVE エアーコンプレッサー SP-40TMX

## —— 取扱説明書 ——

この度は、弊社「AIRWAVE エアーコンプレッサー SP-40TMX」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。ご使用前に必ず取扱説明書をお読み下さい。尚、この取扱説明書は大切に保管して下さい。

※当製品は DIY 商品として開発された製品です。一般家庭用としてご使用下さい。



この度は、(株)和コーポレーション製品をご購入いただき誠に有難うございます。  
 本書には製品の安全性に関する事項と正しい取り扱い方法、簡単な点検・整備・調整について説明してあります。重大な事故、故障にならないために、熟知されている方も本製品の独自の操作方法等がありますので必ず最後までお読みいただき、安全にご使用下さいますようお願い申し上げます。  
 尚、本製品を他の方に譲渡される場合は取扱説明書も同時に添付をお願い致します。

## 目 次

安全上のご注意	1
絵文字表示の内容	1
1. ご使用上の注意事項	2
2. お願い	2
3. 用途	2
4. 警告	2
5. 仕様	3
6. 付属品部品図	3
7. 各部名称	3
8. 設置・保管場所	4
9. 運転準備	4~5
10. 運 転	4
11. 配 線	5
12. 保守と点検	6
13. その他	6
14. トラブルの原因と対策	6
15. 検査記録表	7
16. 保 証	8

## 安全上のご注意

取扱説明書に従い安全にご使用下さい

- ご使用前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しくお使い下さい。
- ここに示した注意事項は、下記の2種類に分類しています。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守って下さい。

 警告	誤った取扱いにより、死亡や重傷などの重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。	 注意	誤った取扱いにより、傷害を負う可能性又は物的損害の可能性のあるもの。重大な結果に結び付く可能性があるもの。
-------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------

- 本文中で使用される“絵表示”の意味は次の通りです。

 危険	回転中は駆動部に注意、可燃物注意		指示を守る		禁止
	電源プラグを抜く		アース線接続		機械の水ぬれ禁止
	取扱説明書をよく読んで下さい	 火気禁止	可燃物のそばで使用しないで下さい		ぬれ手での接触禁止
	作動部品に手や指を挟まないよう十分ご注意下さい		移動及び操作時に手をはさまないように注意して下さい		子供、ペットなどは本体に近付けないで下さい

## 1. ご使用上の注意事項

- ① ご使用になる前に安全上の注意事項をよくお読みになり、本機を正しくお使い下さい。
- ② 本書に記載された注意事項を守らないと、人身事故や機械の破損等に繋がる恐れがありますので必ず注意事項を守るようにして下さい。

## 2. お願い

- ① 商品の運送途上の衝撃等により、商品が破損したり、取付部品が外れたり、曲がったりする場合がありますので、ご使用前に必ず確認して不具合が見つかりましたら、直ちに弊社か運送会社にご連絡をお願いします。
- ② ご使用前には、本体各部のネジ類がしっかり締め付けられているか確認して下さい。
- ③ 運転中、機械の調子が悪いと感じたり、異常に気付いた時には、直ちに使用を中止しご購入販売店にご連絡下さい。
- ④ 整備点検・部品交換の際は必ず電源スイッチを OFF にしてコードはコンセントから抜いて下さい。
- ⑤ 製品は大事に扱って下さい。誤って落としたり、ぶついたりした場合は、異常の有無を確認して下さい。
- ⑥ 運転中は可動部には手を触れないで下さい。非常に危険です。
- ⑦ 揮発性可燃物(シンナー、ガソリン等)の近くでは絶対に使用しないで下さい。
- ⑧ 能力を超えた作業は事故の原因となります。また、著しく耐久性を低下させる場合がございますので、ご注意下さい。
- ⑨ 作業の能率や安全のために、使用説明に従って、各部品がしっかりと取り付けられているか確認して下さい。
- ⑩ 安全な作業をするためには、作業場所は常にきれいに整理をし、十分な採光が必要です。散乱した作業場所は事故の原因となります。
- ⑪ エアー工具類は使用后、本機からすぐに取り外すようにして下さい。
- ⑫ 作業には保護めがね・耳栓・マスク・作業手袋を着用して下さい。
- ⑬ 作業終了後は、タンク下のドレンコックからエアー・水抜きを行い保管して下さい。水抜きを怠るとタンク内にサビが発生し、故障の原因になるばかりでなく、寿命を著しく縮めます。

## 3. 用途

圧縮空気を動力源とする各種エアーツールがありますので、作業に応じてエアーツールをお選び下さい。

- ① DIY 塗装用として、小型工作物・プラモデル・革製品等の塗装に最適です。
- ② エアー充填用として、タイヤ空気入れ・浮き輪・マット・ボール・風船にもご使用いただけます。
- ③ 農機具、車のメンテナンスとして機械器具の清掃・ホコリ払いやインパクトレンチを接続してネジの脱着などにもご使用いただけます。

## 4. 警告


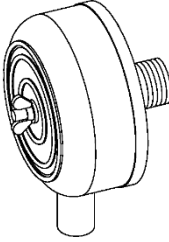

- ① 電源電圧は単相 AC100V で使用下さい。
- ② 発電機の出力量をコンプレッサー電源としてご使用は厳禁です。機器故障につながります。
- ③ 揮発性可燃物の(シンナー・ガソリン等)の傍では絶対に使用しないで下さい。
- ④ 圧縮空気には、ごみ等の不純物や油分が含まれていますので、人への医療行為やペット・水槽への送気など絶対にしないで下さい。
- ⑤ 本機運転中や停止直後は、シリンダ部分や導入管など高温になり、ヤケドの恐れがありますので、冷めるまでは絶対に触れないで下さい。
- ⑥ 圧縮空気は水分を含みますので、本機運転するとタンク内に水が溜まります。使用後はドレンコックを開き、必ずタンク内の水分を抜いて下さい。
- ⑦ 安全弁からのエアー抜きは禁止です。0.8MPa 溜まる前に安全弁が働く等の誤作動故障の原因になります。
- ⑧ 防滴・防水仕様ではありません。水のかかる場所や多湿となる場所で使用しないで下さい。
- ⑨ 本機の運転/停止はスイッチボックス横のスイッチレバーで行って下さい。特に運転中に直接電源コンセントを抜いて停止させますと、シリンダ一内の圧縮エアーが溜まったままとなり、再起動する際にモーターが過負荷となり故障の原因になります。

## 5. 仕様

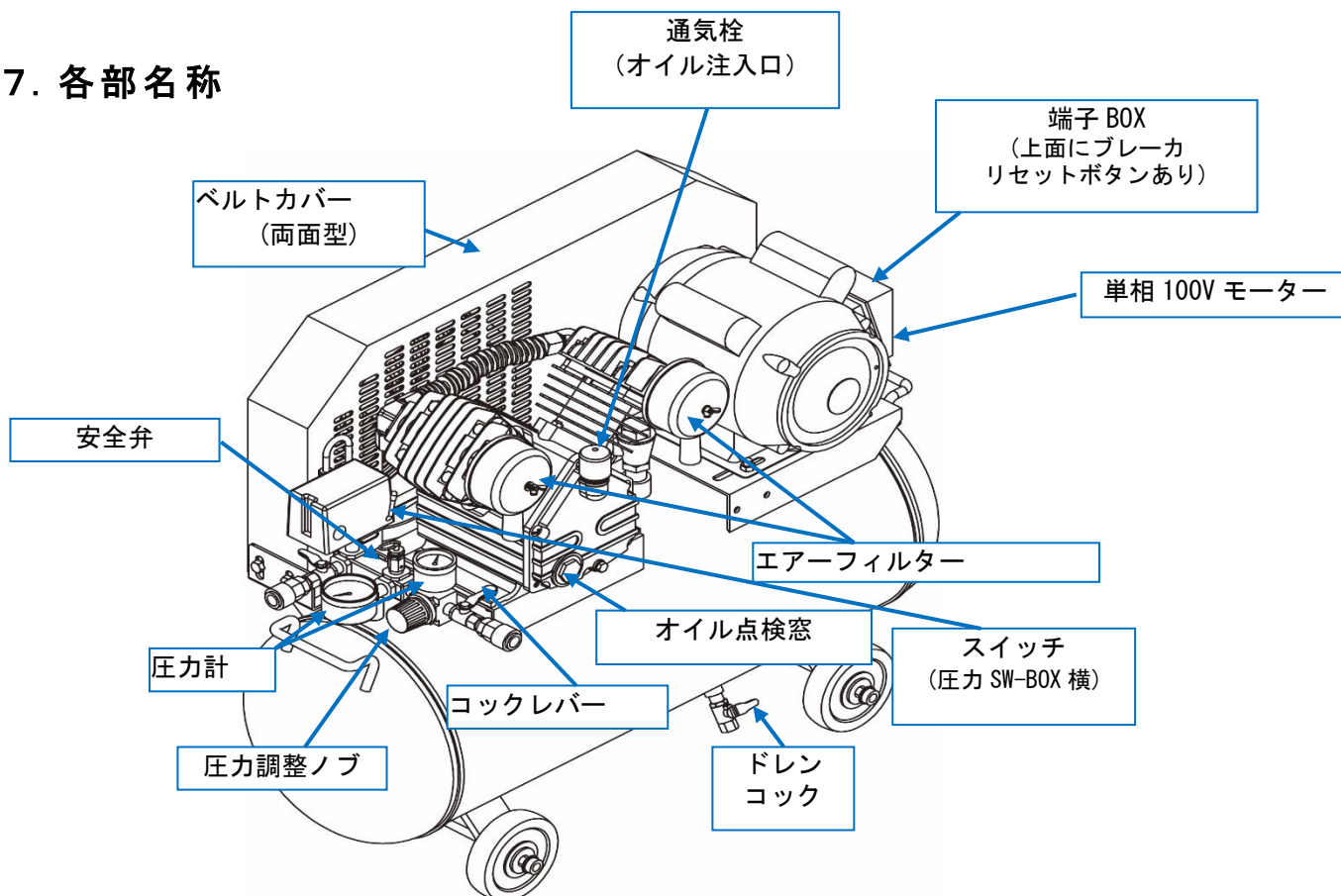
型式	SP-40TMX
電圧	AC100V 50/60Hz
平均消費電力	1000W/1045W
電流	13/11A
使用圧力	0.78MPa
無負荷回転数	1420/1720rpm
吐出量	128/147ℓ/min
タンク容量	39.5ℓ
重量	45.5kg

※ 改良のため、製品の外観・仕様が変わる場合があります。

## 6. 付属品部品図

カプラ×2(1/4in) (ネジ部にエアールール防止剤塗布済み)	エアークリーナー×2	コンプレッサーオイル×1 回分
		

## 7. 各部名称



## 8. 設置・保管場所



### 注意

- ・ 本機は、お子様の手の届かない所に保管し、温度の高い所、雨のかかる所、直射日光のあたる所は避け、チリ・ホコリが少なく風通しが良い場所を選んで下さい。
- ・ 点検し易いよう、壁から 30cm 以上離して平らな場所を選んで下さい。
- ・ 室温は 40℃を超えないようにして下さい。
- ・ 清浄な空気が吸入できる場所を選んで下さい。チリ・ホコリの多い所ではエアークリーナーの目詰まりにより空気量の低下やシリンダー、ピストンを傷つけ、性能が落ちる事があります。

## 9. 運転準備

各部名称図を参考に付属品・部品を取り付けます。

### (1) エアークリーナー取付け(右図参照)

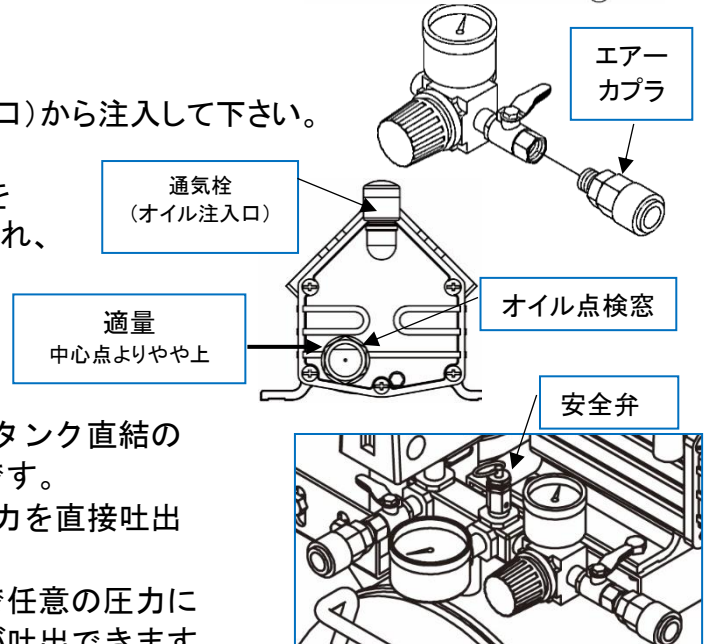
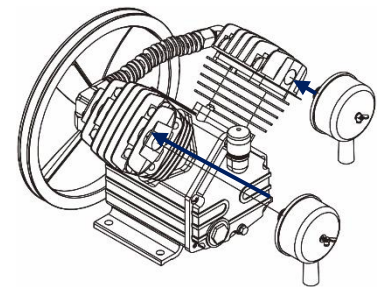
エアークリーナー取付け部分の保護キャップを外し、エアークリーナーを時計方向に回して締め込みます。

### (2) エアーカプラ取付け(右図参照)

ネジ部分にエアー漏れ防止剤が塗布してありますので、そのまま取付けて下さい。

### (3) コンプレッサーオイル注入(右図参照)

コンプレッサーオイルを通気栓(オイル注入口)から注入して下さい。オイル点検窓から適量を確認願います。オイル不足はコンプレッサー本体に悪影響を及ぼします。またオイル入れ過ぎもオイル漏れ、オイル噴出など悪影響を及ぼします。



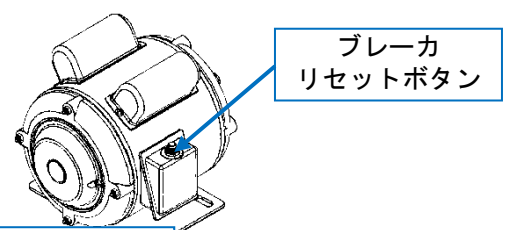
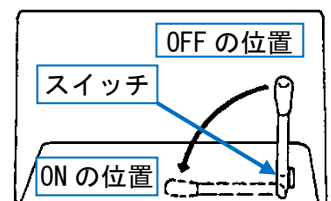
## 10. 運転

### (1) 吐出口

- ① 本機の吐出口は2つあります。エアータンク直結の吐出口とレギュレータ二次の吐出口です。
- ② エアータンク吐出口: エアータンク圧力を直接吐出できます。
- ③ レギュレータ吐出口: レギュレータで任意の圧力に調整した圧力が吐出できます。

### (2) スイッチ

- ① スイッチレバーは、垂直の位置が OFF (切) で水平に倒すと ON (入) になります。
- ② またモーター横にブレーカリセットボタンがあります。本機的能力を超えた作業によるモーターの焼損を避けるため、ブレーカが働きます。ブレーカが作動したら即座にスイッチを OFF にして下さい。
- ③ 1分くらい停止し、その後でブレーカリセットボタンを押し込んで下さい。
- ④ それから、スイッチを ON にして再起動して下さい。



SP-40TMX のブレーカリセットボタン位置 (接続 BOX 上部)

### (3) 自動運転と安全弁

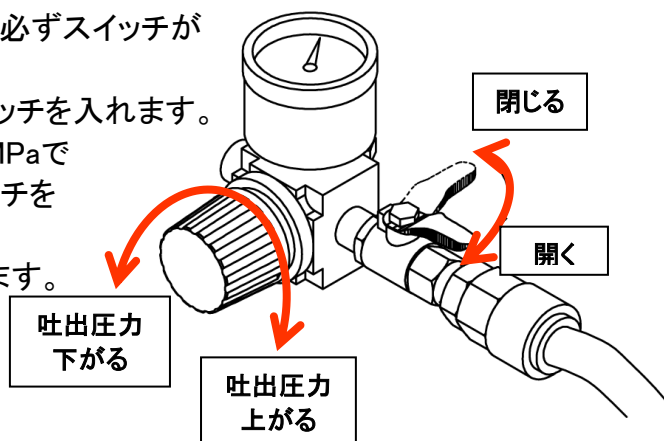
本機の使用圧力は0.78MPaです。起動し始めてから圧力が0.78~0.83MPaになりますと自動的に圧カスイッチが作動してOFFになり、圧力が0.58~0.63MPaまで下がりますと、再び起動します。



圧力0.78MPaで圧カスイッチが働かずに圧力が上がっても、0.98MPaで安全弁が作動し圧力を下げる構造になっています。

### (4) 始動

- ① 電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずスイッチがOFFになっている事を確認して下さい。
- ② 電源プラグをコンセントに差し込み、スイッチを入れます。圧力がタンク内に満杯になり、圧力0.78MPaで圧カスイッチが作動します。この間スイッチを途中で止めたりしないで下さい。
- ③ 吐出口のコックレバーを廻して全開にします。



### (5) 吐出口圧力調整

- ① 本機吐出口には、圧力調整器が付いています。使用圧力 0.78MPa 以下の圧力を無段階で設定できます。
- ② 使用圧力 0.78MPa まで上げておいてから、圧力調整ノブを廻して必要とする圧力数値に設定して下さい。ノブは時計方向で圧力は上がり、反時計方向で圧力は下がります。

## 11. 配 線

- (1) 優良な配線器具を使い電気設備基準や電力会社の規則に従って、保守に十分注意して下さい。
- (2) 電源はコンセントから直接取る事が望ましいですが、やむを得ず延長コードを使用する場合は、2mm<sup>2</sup>(20~30A)以上のコードをご使用下さい。延長コードが細かったり、長過ぎたりしますと、電圧降下により起動しない場合がありますのでご注意下さい。  
(延長コードは 10m以下でご使用下さい)



コンセントプラグを抜く時は、必ずスイッチを OFF(切)にしてから抜くようにして下さい。  
(「トラブルの原因と対策」の項目を参照して下さい)

## 12. 保守と点検



① エアークリーナーは定期的に清掃・交換して下さい。交換は年に一回を目安としますが、汚れがひどい場合は、本機機能を低下させないためにも早めに交換して下さい。

※ 補修部品(別売)は弊社に用意してありますので販売店にお問い合わせ下さい。

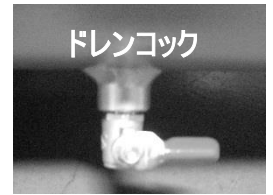
② 右写真のドレンコックから水抜きを行って下さい。

エアーを圧縮すると必ず水が溜まります。サビ防止のため、使用後はドレンコックからエアータンク内の水抜きを行って下さい。

その際一気にドレンコックを開きますと、圧縮された空気とサビが混じった水が飛び散り、失明や耳を傷める恐れがありますので注意して下さい。

トレイなどを置いてドレンコックを少しずつ開いて排出して下さい。

③ 作業終了後は、エアータンク内のエアー抜きを行い、タンク内は空にして下さい。



安全弁からのエアー抜き禁止

【注意】安全弁からのエアー抜きは禁止です。0.8MPa 溜まる前に安全弁が働く等の誤作動故障の原因になります。

## 13. その他

市販品の水抜き・オイル・圧力弁がセットになったエアーコントロールセットを本機に装着してご使用いただければ、一層効率の良い作業が行えます。

## 14. トラブルの原因と対策

故障の種類	原因	対策
圧縮機が回転しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>電源からの入力なし</li> <li>モーターの故障</li> <li>スイッチの故障</li> <li>圧力スイッチの故障</li> <li>電圧降下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラグ・コードの点検</li> <li>モーターの交換</li> <li>スイッチの点検・交換</li> <li>圧力スイッチの点検・交換</li> <li>延長コードの使用を止める</li> <li>電力会社と相談</li> </ul>
圧力が上昇しない・ 上昇が遅い	<ul style="list-style-type: none"> <li>圧力計の故障</li> <li>回転数の低下</li> <li>空気漏れ</li> <li>弁の作動不良</li> <li>エアーフィルターの汚れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>圧力計の交換</li> <li>入力電圧の確認</li> <li>漏れ箇所の修理 (タンク修理不可)</li> <li>弁の調整または修理</li> <li>フィルターの清掃・交換</li> </ul>
異常音・振動	<ul style="list-style-type: none"> <li>設置不良</li> <li>締め付け部のゆるみ</li> <li>本体各部の摩耗</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設置(場所)の変更</li> <li>増し締めをする</li> <li>消耗部品の交換</li> </ul>
再起動しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>スイッチを切らないで、電源コードを直接抜いていないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スイッチを切ってから電源プラグを抜く習慣にして下さい</li> <li>ドレンコックからエアーを抜き、再起動圧力まで下げて下さい。</li> </ul>

## 15. 検査記録表

検査項目	検査日付	年	年	年	年	年	年
	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
本体損傷の有無							
安全弁							
水抜き							
フィルターの汚れ							
コンプレッサーオイル量							
オイル交換日							
異常音・振動・その他							
検査担当者							

検査項目	検査日付	年	年	年	年	年	年
	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
本体損傷の有無							
安全弁							
水抜き							
フィルターの汚れ							
コンプレッサーオイル量							
オイル交換日							
異常音・振動・その他							
検査担当者							

### 注意

電圧が低下していてモーターが正常に回転しない場合は本体ブレーカーやモーターの焼き付きの原因となります。  
この場合、延長コード等を使用せず直接コンセントから電源を取り、15A 以上の電流を確保して下さい。